

華南の中心都市

広州市は広東省の省都で、人口約一二〇〇万人を有する華南地域の政治、経済、文化の中心都市である。五羊が豊穰をもたらず伝説から「羊城」「穗城」や「花城」の愛称がある。孫文の革命運動の主要舞台ともなった。気候は亜熱帯に属し、夏は高温多湿。北回歸線のわずか南に位置するため、夏至には太陽が真上に来る。

「食は広州に在り」といわれるとおり、食材と料理法の豊富さで有名である。

今年度は日中国交正常化三十五周年にあたり、総領事館、広州日本商工会主催による歌舞伎公演、企業博覧会である「JAP ANフェア」など各種記念イベントが開催

広州のシンボル五羊像



校舎



●中華人民共和国● 廣州 日本人学校

され、中国人の関心も高く、好評であった。

現地
の教育環境

中国の学校制度は、日本と同じ六・三・三・四制で、公教育は無償、国策により英語教育を重視している。

学年は九月に始まり、春節を経て六月に終わる。昼休憩は約二時間半あり、午後五時ごろに帰宅したあと多くの家庭学習をこなす。寄宿舎のある学校で学ぶ子どもたちも、週末には自宅に帰る。

土・日は、少年宮（課外教室）や家庭教師によって、ピアノ、中国伝統楽器、舞踊、拳法、剣術などを学ぶ機会がある。幼少のときから親元を離れて英才教育を受ける子どももいる。



市内に数校ある国際学校では、二歳（K1）から十八歳（G12）までが在籍し、

中学部2年 北京修学旅行
万里の長城にて



小学部2年 英会話の授業



IBプログラムを実施するところもある。本校に学ぶ子どもたちの多くは卒業後に日本の高等学校へ進学するが、保護者の派遣期間の長期化や英語教育に対する関心の高まりなどにより、近年は国際学校の中・高等部への編入、進学が増加している。

「たくましく『生きる力』を
もった子どもたち」をめざして

本校にバスや自家用車が次々に到着する朝八時十分。子どもたちの一日が始まる。二〇〇三年七月、それまで校舎としていたマンションのフロアに別れを告げ、約五〇〇〇平方メートルのグラウンドと屋内プールを有した念願の「広州日本人学校」新校舎に移転した。それからわずか三年後の〇六年

運動会 応援団長による選手宣誓



縦割り集会 ペインティング



現地校との交流 小学部4年
よさこいソーランでのペイン
ティング



入学式 胸に花をつけてもら
う新1年生

Japanese School of Guangzhou
URL <http://www.jsjgcn.com>
児童生徒数 小=310人 中=66人

子どもたちから

中ぐくのおともだちといっしょにおそんで
うれしかったよ。
学校のみんなどおべんどうをたべたよ!!
英語や中国語がわからなくても、
先生がいてねいに教えてくれます。(小5)
生徒の絆が深く、いつも笑いが絶えない学校です。
(中2)

には、右肩上がりの中国の経済発展、日系企業の進出に伴う児童生徒数増加を見込み、同敷地内に校舎を増築。同年二月十八日には創立十周年記念式典を開催した。これにより、それまで混在していた小・中・中学部が小学部校舎・中・中学部校舎に棟分かれたが、二つの校舎は渡り廊下で連結されている。この様子は、まさしく現在の本校を象徴している。

中学部と小学部は、あるときは合同で、またあるときは学部や学年のねらいに沿った取り組みを展開している。

縦割り集会では、小・中・中学部が共に集うなか、下級生を世話する上級生の優しさが多く見受けられる。一方、自己の考えをまっすぐに述べ互いを高め合う中・中学部集会や、現地邦人から仕事に対する思いを学ぶ生き

方講演会では、生徒の真摯な姿が見られる。中学部二年を団長とした応援団が練習を組織する四色対抗の運動会では、赤、白、青、黄に分かれた全校児童生徒が、さわやかに、堂々と、応援合戦を繰り広げる。

また今年度は、初めて児童・生徒会選挙が行われた。それまでの推薦や定数内承認とは異なり、立候補者および推薦人の擁立、立会演説会、投票、開票と進むなかで、選挙する者とされる者の双方に『みんな決めて、みんなでやりぬく』意識が生まれた。学校教育目標「国際社会の中でたくましく『生きる力』をもった児童・生徒の育成」のもと、これらいずれの取り組みも『自ら学ぶ子』『やりぬく子』を育成するものと確信している。

(二〇〇八年二月現在)



小学部5年 すっかりクルー気分の航空教室